

図書館へ行こう。

大学図書館が大きく進化しています。本を借りて静かに勉強するだけでなく、議論しながらグループ学習ができ、大学院生による学習相談など学習支援サービスも充実。自宅からオンラインデータベースの利用も可能——こんな多機能な図書館、利用しないともったいない！



大正末期頃の法政大学図書館の書庫。隣接して閲覧室があった

卒業生の74%以上が満足 進化する図書館サービス

大学の心臓部とも言われる図書館。その充実度が大学の教育・研究レベルを反映していると言っても過言ではありません。

本学図書館の歴史は、和仏法律学校時代の1899（明治32）年にまでさかのぼることができます。以来、大学の発展とともに拡充を続け、現在では市ヶ谷、多摩、小金井の3キャンパスに図書館が置かれ、蔵書数170万冊、雑誌2万2000タイトル、新聞約560タイトルを所蔵、国内の大学図書館では屈指の規模を誇ります。機能面でも、図書の貸出や閲覧・学習スペースの提供にとどまらず、情報の電子化と利用者の多様なニーズにハード・ソフト両面から対応した多機能な図書館へと進化しています。

Catalog・オンライン目録検索システム）です。本システムは図書館所蔵資料だけでなく、学内の研究所・資料室の所蔵資料の一部や他大学・機関の所蔵資料についても検索できます。さらに、利用者自身が貸出状況を確認したり、貸出期間の延長や図書の購入希望、他大学からの文献取り寄せの申し込みも可能です。

また、図書館が契約しているデータベースは現在60種類、収録電子書籍は1万超、電子ジャーナルは約2万タイトルにのぼります。これらのほとんどは図書館のウェブサイト（※）から利用できます。

満足度と利用度をさらに高める 図書館将来計画のビジョン

図書館では、利用者の満足度と利

用度をさらに高め、本学の理念・目的を実現するため、2011年4月に「法政大学図書館将来計画2011-2015」を策定し、図書館整備に多面的に取り組んでいます。

この将来計画では、左に掲げた理念とビジョンを定め、3つのビジョンに対応した次の取り組みが行われています。

- ① 知的活動の環境整備と情報発信（情報発信、電子資料の導入、研究用資料の充実、図書館環境の整備、文化創造の拠点）
- ② 学習・教育支援の強化（学習用図書資料の充実、学習サポートの充実、学習施設・設備の充実、学生参加の図書館づくり）
- ③ 知的活動の支援スキルの向上（組

【法政大学図書館の理念】

図書館は、教育・研究に必要な図書資料及び情報を蓄積するとともに、利用者の知的活動を多面的に支援し、新しい文化創造の拠点となる。

【法政大学図書館のビジョン（2011-2015）】

- (1) 図書館は、学術情報を主として多様な図書資料及び情報を蓄積し、種々のメディアを通じて提供する。
- (2) 図書館は、利用しやすい快適な学習環境を充実させ、豊かな学びの空間を提供する。
- (3) 図書館は、利用者の知的な活動の支援に必要な専門的能力の向上につとめる。



多摩図書館での文献探索ガイダンス



学習アドバイザーによるレポートの書き方相談

織的な研修、自発的な研修、今後必要とされる能力

このうち、在学生の図書館利用に直接関わってくるのが②「学習・教育支援の強化」で、学生の立場に立った情報リテラシー教育や学習アドバイザーなどの取り組みがそのまま本学図書館を特色づけています。ここでは、学習・教育支援を中心に特色ある取り組みを紹介しましょう。

「図書館情報リテラシー教育」も 図書館スタッフにおまかせ

インターネット上の膨大な情報の中から、必要かつ信頼性の高い情報を効率よく探すためには、一定のスキルが必要となっています。そこで、各学部のゼミを対象に、図書館スタッフが図書館の利用方法や各種デー

タベースの活用方法などを実地に解説し、情報収集・評価・分析・活用・発信の能力（「情報リテラシー」）を習得するというのが「ガイダンス・ゼミサポート制」による図書館情報リテラシー教育です。

ガイダンスは市ヶ谷図書館では基礎レベルと専門レベルに分かれ、専門ゼミガイダンスでは図書館スタッフが教員と打ち合わせ、ゼミのニーズに合わせて内容をアレンジしています。多摩図書館の場合は「入門ゼミ・基礎演習向け文献探索ガイダンス」「専門演習向け文献探索ガイダンス」「グループ・個人向け文献探索ガイダンス」の3つに分けて行われています。また、小金井図書館では主に学部1年生を対象とした「図書館基礎ガイダンス」と、研究室に所属する学生を対象とした「研究室サポート

身近で心強い支援者 「学習アドバイザー」

図書館の学習サポートでは、大学院生による「学習アドバイザー制度」も特色の一つです。

学習上の疑問や悩みがあっても、直接教員に聞きづらい時もあるでしょう。また、ゼミに所属していない学生の場合、レポートや論文の書き方、資料の収集方法などの指導を受けられる先輩が身近にいません。これらを解決するため、図書館では学生の疑問を共有できる身近な先輩である大学院生による「学習アドバイザー制度」を2009年度から実施しています。通常講義が行われる平日の所定時間内に学習アドバイザー

が館内に常駐し、レポート・論文作成のサポート、プレゼンテーションの方法など学習全般について予約なしで相談することが出来ます。図書館のウェブサイトにアドバイザーが紹介されていますので、学習で困った時や不安になった時には遠慮なく相談してみてください。

グループ学習に最適な空間 「ラーニングcommons」

また「学習教育支援の強化」では、学習施設・設備の充実も重視しており、学生の能動的な学習（アクティブ・ラーニング）を支援するために設けられているのが、グループ学習支援のためのスペース「ラーニングcommons」です。

1990年代以降、米国の図書館で学生が電子情報・印刷物を活用し



市ヶ谷ラーニングcommons



多摩ラーニングcommons

て自主的なグループ学習を行える空間が設置されるようになり、本学図書館でも、学生からサブゼミやプレゼンテーションの練習などに使える施設の要望が多くなりました。これに答え、市ヶ谷図書館では2010年から可動式の机と椅子を備え、図書館資料とパソコン、プロジェクトなどの情報機器を活用し、議論をしながらグループ学習ができる「ラーニングcommons」の運営をスタートしました。

ラーニングcommonsは予約なしで利用でき、ペットボトルなどふた付き容器であれば飲料の持ち込みも可能。こうした手軽さもあって連日多くの学生が訪れ、自由な雰囲気の中で自主的な学びを実現しています。

現在、市ヶ谷図書館のラーニングcommonsは102席、同じく多摩図書館では78席が用意されています。小金井キャンパスのラーニングcommonsは、キャンパスの共通施設として

て図書館外に置かれています。プロジェクトの画面を複数のパソコンで操作・共有できる情報機器など最先端の設備が特色です。

学生による魅力ある図書館づくり 「ライブラリーサポーター」

さらに本学図書館の大きな特色と言えるのが「学生参加の図書館づくり」です。学生の視点を活かして魅力的な図書館をつくるというコンセプトのもとで実施しているのが「ライブラリーサポーター」制度です。ライブラリーサポーターは例年4〜5月に一般学生から公募し、1年単位で活動します。活動内容はキャンパスによって異なりますが、市ヶ谷図書館の例で見ると、20人ほどのサポーターが、図書館スタッフとの懇談会、学生選書、業務体験の3つを中心に活動しています。

懇談会は年2回開かれ、学生に図書館利用に関する意見や要望を述べてもらいます。市ヶ谷図書館で館内専用ビニールバッグを備えたり、小金井キャンパスで図書館から遠く離れた校舎にも返却ポストを設置するなど、ライブラリーサポーターから提案されたサービスも多くあります。

学生選書は、図書館にはないが他の学生に読んで欲しいと思う図書や、サポーターが書店に足を運んで選び、その中から図書館の収書方針に沿ったものを学生選書として受け入れる



市ヶ谷図書館の学生選書コーナー

というもの。購入した図書は専用の棚を設け、書店のように自分たちでPOP（販売促進用の広告）を手作りして展示しています。

また、業務体験は図書にビニールカバーを掛けたりラベルを貼るなどの図書館業務の一端をサポーターに体験してもらおうもの。

このほか、サポーターの自主企画として、一般学生も参加して自分が読んで良かったと思う本を5分で紹介し、聴衆が最も読みたくなった本をチャンプ本に決める、ゲーム感覚で楽しめるピブリオバトル（書評合戦）を多摩、市ヶ谷の図書館で行いました。

こうした本学図書館の機能は、使ってみないことには実感できません。図書館では、より多くの学生の皆さんの利用を期待しています。

次に、市ヶ谷・多摩・小金井の3図書館の概要について紹介しましょう。

市ヶ谷図書館

●蔵書数 72万5990冊
●閲覧席数 1415席

学生の能動的学習を促す 設備・機能が充実

市ヶ谷図書館は、市ヶ谷キャンパス80年館の地下4階から地上2階までの6つのフロアで構成されており、1・2階は開架フロア、地下1階〜地下4階は閉架フロアとなっています。1階には学習・一般図書、文庫・新書など約19万冊の図書資料があるほか、ガイダンスルーム、学生選書コーナー、グループ学習室、学習アドバイザーが常

他大学の図書館が利用できる 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム

山手線沿線の私立大学図書館がコンソーシアムを形成し、互いの学生に図書館を開放するという、学生にとっては大きなメリットのあるサービス。現在、本学のほか青山学院大学、学習院大学、國學院大学、東洋大学、明治大学、明治学院大学、立教大学が加盟しており、学生証を提示すれば図書館を利用できます。またOPACによって加盟大学図書館の蔵書を検索できます。利用方法や貸出条件などの詳細は、本学図書館のウェブページを参照してください。



駐するラーニングcommonsが設置されています。学生の能動的学習の場としての設備・機能が充実しているのが大きな特色です。2階には席数約700の閲覧室、グループ学習室、ラウンジなどがあります。

地下1階にはレファレンスカウンターやデータベースコーナーなどがあり、地下4階にかけて約53万冊の図書、94種の雑誌・新聞があります。本学図書館では、閉架書庫も学生に公開しており、必要な手続きをすれば貴重書庫など一部を除いて入ることができます。

デザイン工学部が置かれている市ヶ谷田町校舎の5階にも閲覧室があり、デザイン工学部以外の学生も利用できます。

また、市ヶ谷図書館では正岡子規、和辻哲郎、三木清らの多数の「個人文庫」を収蔵しており、学術的に内外から高い評価を受けています。

多摩図書館

●蔵書数 82万5130冊
●閲覧席数 1142席

利用者の細かなニーズに 対応した閲覧・学習環境

多摩図書館は、多摩キャンパスのほぼ中央に位置する図書館・研究所棟の中にあり、地下2階から地上4階までの6フロアからなります。

地下1・2階は閉架書庫で、約64万冊の学術研究図書が収められています。この中には、D・V・グラス、谷川徹三、ミシェル・ルヴオンらの個人文庫や貴重洋書なども含まれます。1



図書館ウェブサイト提供 資料の探し方・調べ方ツール

本学図書館では学習支援の一環として、資料の探し方・調べ方についてレファレンスカウンターで実際に相談を受けた事例に基づき、図書館ウェブサイトで以下のようなツールを提供しています。普段の勉強に役立ててください。

「レポート・論文を書くには」

レポート・論文資料の探し方、OPAC利用ガイド、オンラインデータベースガイド、参考・引用文献の書き方を紹介しているほか、気軽に読める「マンガでわかるレポート作成のヒント」を掲載。

「調べ方案内」

法令や判例、業界別平均値、統計データなど各種情報の調べ方を紹介。企業の決算公告、企業取録作品などの調べ方も掲載。「パスファインダー」

「江戸幕府」「高齢者福祉」「金融論」「自動車工学」など、各種テーマに沿った「調べ方ガイド」。人文・社会科学、経済・経営、自然科学、技術の分野のパスファインダーを作成・公開している。



「マンガでわかるレポート作成のヒント」(抜粋)



戦後の創刊雑誌の数々。右端の『毎日グラフ』は1964年の東京オリンピックを特集した臨時増刊号

本コレクションは、1998年に東京都在住の柴田育郎氏より本学に寄贈され、雑誌創刊号のほか、増刊号や記念号、特別号なども含まれ、総冊数は3千を超えます。ジャンルにほとんど偏りがなく、マンガ週刊誌から文芸誌、女性誌、ファッションや自動車、スポーツなどの専門誌にいたるまで集められていて、日本の雑誌文化やサブカルチャー研究の資料となりうる内容といえるでしょう。

雑誌創刊号コレクション(多摩)

1889年から1998年に創刊された雑誌2453タイトル(2007年12月現在)の創刊号コレクションです。

図書館で出会える貴重な資料たち

多摩図書館3階は、PCの持つ利便性を生かしつつ冒頭に記されたとおり多機能な図書館への進化を始めています。

4階は雑誌・新聞縮刷版・政府刊行物の閉架フロアですが、地下の閉架書庫とともに、手続きをすれば学生の入庫が可能です。

多摩図書館の蔵書は、地域性や設置学部の専門分野を反映して、三多摩地域の地方史、医療倫理、リハビリ、環境衛生、家庭・ジェンダーなどに関連した収集に特徴があります。



ノートには毛筆と鉛筆の筆記があり、一部は清書している。ノートによっては復習と思われる朱文字の書き込みが多く、かなり勉強したあとが見える

ボアソナード博士が教頭を務めた東京法学校時代に、富井政章・松室致・吉原三郎ら一流の講師陣の講義を学生の八下田(やげた)勝蔵が口述筆記したものです。

東京法学校時代の八下田勝蔵の講義ノート(市ヶ谷)

3階の第一閲覧室には、シラバスに掲載された参考図書をはじめ、学習に必要な図書資料、教職課程用中高教科書、辞書類を備え、講義の予習・復習に最適な環境です。

また3階には、特に集中して学習したい学生が利用できるよう1階ごとの仕切りを設けたスタディールーム(20席)、映画やドラマなどのDVDを一人で、あるいはグループで視聴できるメディアライブラリーが置かれています。

小金井図書館
蔵書数 15万5959冊
閲覧席数 405席



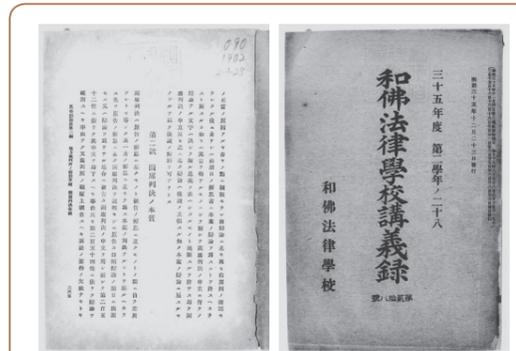
主人公が東国に下る際、三河国(愛知県東部)で川に渡された八つの橋のある「八橋」で、かきつばたの花を眺めながら一首詠んだという伊勢物語のモチーフだけを取り込んでいる。

源氏絵は、柳亭種彦「修紫田舎源氏」の豊国の挿絵をもとに、豊国をはじめ多くの絵師が多色刷りの華麗な錦絵(浮世絵)に描いて販売され、大いにもてはやされました。

子規文庫の源氏絵(初夏編) 田舎源氏と伊勢物語(市ヶ谷)

正岡子規が愛読、愛用した蔵書のコレクション「子規文庫」には、和漢洋書や自筆ノートなどのほか、江戸・明治期の絵画も多く含まれ、中でも目を引くのが、歌川豊国、国芳らの「源氏絵」を綴じた画帖で、季節感あふれる精緻で鮮やかな錦絵(浮世絵)を見ることが出来ます。

理系の教育・研究では電子化された資料やデータベースの活用頻度が高く、そのため小金井図書館では、前述のように図書館スタッフによる研究室サポート制度の実施率が高くなっています。



デジタル化された貴重書(部分)

また、普段はなかなか目にするのできない本学所蔵の貴重書や研究所蔵資料のデジタルアーカイブ化も進めており、学術機関リポジトリから「梅謙次郎の民法起草材料」や「和仏法律学校・法政大学講義録」など、1000を超える貴重書のデジタル画像が閲覧できます。

学術機関リポジトリ 学内の研究成果や貴重資料を世界に向けて発信

図書館のTwitterをフォローしよう

市ヶ谷図書館、多摩図書館では、学生に図書館をもっと身近に感じてもらうため、Twitterによる情報発信を行っています。

法政大学市ヶ谷図書館
アカウント名: @hosei_iLib
URL: https://twitter.com/hosei_iLib



QRコード

法政大学多摩図書館
アカウント名: @hosei_tLib
URL: https://twitter.com/hosei_tLib



QRコード